

部活動で学んだこと

ふたうら
二浦小学校（二浦町）
6年 五通朱里

私たちの二浦小学校は、全校児童27人です。“二浦元気丸！”を今年のスローガンに掲げ、勉強にもスポーツにも全力でがんばっています。私は大好きなミニバスケットを3年生のときから続けています。年々部員数が減り、今年は8人です。ミニバスケットは10人の選手がいないと大会に参加できません。くやしくて、残念な気持ちでいっぱいだったけど、友だちと大好きなミニバスケットができることは、二浦小にいるからです。先生は、あいさつや荷物並べのことを厳しくおっしゃいます。最近、私はそんなちょっとしたことにも自分で気づき、行動することがとても大切なことだと思うようになりました。



“二浦元気丸”で牛深ハイヤ祭り子ども大賞2連覇!!

ぼくのわたしの学校部活自慢



目標が達成できるように

本渡北小学校（浜崎町）
6年 松崎 蘭

本渡北小学校ミニバスケットボール部は、県大会優勝、全国大会出場を目標にして、日々練習に励んでいます。部員一人ひとりがこの目標を達成できるように、夏休みも厳しい暑さの中、一生懸命に練習をがんばってきました。昨年は、県大会で準優勝でした。優勝チームとは1点差で、悔し涙があふれました。しかし、九州大会では3位になることができました。私たちは、先輩たちをこえられるように、プレー以外のふだんの生活態度も向上させています。また、応援してくださる人たちや保護者、毎日指導してくださる先生の期待に応えられるように、そして、自分たちの目標が達成できるようにがんばります。

宝島の健康

よさぐさ
田嶋 要作 さん
（河浦町河浦・90歳）



◆毎日の楽しみは？

毎朝取っている3種類の新聞を読むことです。新聞は生活には欠かせませんね。また、ハウスにキュウリを30アール作付けしていて、生育状況を2～3日おきに見に行くのも楽しみのひとつです。

◆健康の秘けつは？

健康の秘けつは、特にこれと言って思い当たりません。ただ、兵役に就いていたころから、食事は腹八分を守っています。また、ハウスに行き来するのが良い運動になっているのかもしれません。



若っ喝采

吉森 可南子 さん（倉岳町棚底・23歳）

歯科衛生士として、市内の歯科医院で働いています。今は仕事に慣れることを最優先にされていて、早く1人前になって、患者さんに喜ばれるようにがんばりたいです。それでも、ときどきは中学時代の友だちとカラオケで歌ったりして、盛り上がりたと思っています。

地域の人々とともに

東雲寺保育園（五和町）

東雲寺保育園（梅本綾子園長・全園児53人）では、「心身ともに健康な子どもを育てる」「何事にも意欲的に取り組む子どもを育てる」「思いやりと助け合う心をもった子どもを育てる」という保育目標のもと、さまざまな行事の中で地域との交流も大切にしています。お祭りごっこでは、手作りの獅子を持ち、「わっしょい、わっしょい」の掛け声でおみこしを担いでまわると、そのほほ笑ましさに地域の人たちも集まってきてお参りされ、声をかけてくださいます。このように、毎年楽しみにしている伝統行事を、これからも地域とともに伝えていき、心身ともに健康でたくましい子どもたちに育ってほしいと願っています。



みんなで作ったおみこしと獅子を三江神社でお披露目



運動会楽しかったよ!!

温かい“つながり”の中で

新合保育所（河浦町）

新合保育所（倉田清美所長・全園児19人）では、豊かな自然に囲まれた、小さい保育所ならではの家庭的な雰囲気の中で、月刊絵本・園文庫・移動図書館で絵本に親しみ、菜園ではさまざまな野菜を育てて、給食でおいしくいただくなど、豊かな想像力や感性をはぐくむ保育を目指しています。10月の運動会では、93歳のおばあちゃんをはじめ、多くの地域住民に参加していただき、楽しいひとときを過ごしました。また、隣接する新合小学校とは、音楽会や童話発表会への招待など、年間を通して交流しています。これからも、地域との温かい“つながり”を感じながら、子どもたちには元気に育ってほしいと願っています。

地域づくりコーナー

日本一を目ざす、芹生の郷の柿づくり

手野まちづくり振興会（会長 松村一比孝）

手野地区は、昔から田芹が多く自生していたことから「芹生の郷」と称され、内野川の恵みを受けながら、流れ豊かに発展してきた水清き田園地帯です。手野まちづくり振興会では、日本一を目ざす「芹生の郷の柿づくり」をテーマに新たな取り組みを始めました。その一つは、つるし柿にするのと味よし、色よし、姿よしの三拍子そろった絶品の渋柿を、「芹生柿」として県を代表する1級の特産品にしようというものです。現在、生産組合「芹生園」を立ち上げ400本あまりを栽培しているほか、パッケージ開発や商標登録の検討にも入っています。もう一方は、手野の秋を彩る景観づくりです。こ



▶ 芹生柿のしおり

ちらは、自分たちが住む地域をみずからデザインしようと、昔からあるどんぶり柿を河川や道路沿いに植樹して、柿街道をつくらうというもので、景観デザイナー部「柿の会」が主体となり、現在50本の植栽を終えています。近い将来は鈴なりに実った大きな柿が、昔懐かしい景観を見せてくれるものと楽しみにしています。

このように、私たちが進める「芹生の郷の柿づくり」は、日本一の地域づくりを目ざして、いま着々と進んでいます。